

(様式第 10)

大医病発第 67 号
平成 28 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 大阪医科薬科大学
理事長 植木 實 (印)

大阪医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号
氏 名	学校法人 大阪医科薬科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

大阪医科大学附属病院

3 所在の場所

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号	電話 (072) 683-1221
----------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜</p> <p>② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	① ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 内科 2 呼吸器内科 3 消化器内科 4 循環器内科 5 神経内科 6 リウマチ内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 外科 2 呼吸器外科 3 心臓血管外科 4 形成外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科		⑮麻酔科	⑯救急科			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科 2 歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科	
----------------------	--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
60 床	床	床	床	822 床	882 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	509人	179人	552人	看護補助者	113人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	12人	27人	15.9人	理学療法士	31人	臨床検査技師	68人
薬 剤 師	56人	9人	60.8人	作業療法士	8人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	1人	0.3人	視能訓練士	11人	その他	0人
助産師	35人	2人	35.6人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	837人	44人	870.6人	臨床工学士	29人	医療社会事業従事者	8人
准看護師	1人	0人	1.0人	栄 養 士	2人	その他の技術員	12人
歯科衛生士	4人	0人	4.0人	歯 科 技 工 士	1人	事務職員	183人
管理栄養士	13人	6人	18.2人	診療放射線技師	48人	その他の職員	100人

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	36人	眼科専門医	16人
外科専門医	37人	耳鼻咽喉科専門医	9人
精神科専門医	10人	放射線科専門医	12人
小児科専門医	28人	脳神経外科専門医	12人
皮膚科専門医	5人	整形外科専門医	20人
泌尿器科専門医	8人	麻酔科専門医	19人
産婦人科専門医	18人	救急科専門医	3人
		合 計	233人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (内山 和久) 任命年月日 平成28年4月1日

安全管理の業務の経験については、経過措置期間までに対応致します。

過去の経験：安全管理委員会 2011. 8. 1-2016. 3. 31

医療安全調査委員会 2012. 8. 1-2013. 1. 31、2014. 8. 1-2015. 1. 31

2016. 2. 1-2016. 3. 31

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	759.1人	2.0人	761.1人
1日当たり平均外来患者数	1994.2人	88.7人	2083.0人
1日当たり平均調剤数	入院 971.7、外来 175.5、合計 1147.2 剤		
必要医師数	195人		
必要歯科医師数	5人		
必要薬剤師数	26人		
必要(准)看護師数	451人		

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	907.2m ²	鉄筋コンクリート	病床数	16床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 24.96 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	1床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 40.48 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	213.35m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)自動分析装置AU5800 3台、生化学・免疫統合型分析装置cobas8000 2台、全自動免疫装置Architect i4000SR、PCR検査用自動測定装置TaqMan「オート」システムB、迅速マルチ自動分析装置ディメンションEXL、全自動アレルギー検査装置UniCAP250、グリコヘモグロビン分析装置 アダムスA1c H A-8181、グルコース分析装置 アダムス グルコース GA-1171			
細菌検査室	130.41m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)自動細菌同定感受性検査装置VITEK2、自動血液培養・抗酸菌培養装置 BacT/ALERT 3D、LAMP 法リアルタイム濁度測定装置LoopampEXIA			
病理検査室	232.59m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)自動包埋装置、自動染色装置、クリオスタット等			
病理解剖室	111.41m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)解剖台			
研究室	8,277.3m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)ドラフトチャンバー、クリーンベンチ、遠心分離機、攪拌機、培養機器、滅菌器、超低温フリーザー、超音波洗浄器、純水製造装置、蒸留水製造装置、低温恒温水装置、細胞・試料破碎装置等			
講義室	1,779.5m ²	鉄筋コンクリート	室数	4室	収容定員	692人
図書室	2,861.82m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室	蔵書数	231,799冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	72.4%	逆紹介率	56.0%
算出根拠	A: 紹介患者の数	20,419人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	16,542人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	976人	
	D: 初診の患者の数	29,538人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
小林 一郎	社会福祉法人 仙養会北摂総合病院	○	高槻市医師会の医療安全対策委員会委員であり医療に係る安全管理に関する識見を有する者であるため	有・ 無	1
阪上 雅史	兵庫医科大学 病院		大学附属病院の医療安全管理部長であり医療に係る安全管理に関する識見を有する者であるため	有・ 無	1
家郷 資大	家郷総合法律 事務所		現職の弁護士であり、法律に関する識見を有する者であるため	有・ 無	1
田中 和子	なし		実際に医療を受ける者であり、意見をのべることができる者であるため	有・ 無	2
佐野 浩一	学校法人大阪 医科薬科大学		大学の教員であり、医療等の内容及び説明、同意文書が一般的に理解できるか等の意見をのべることができる者であるため	有 ・無	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・ 無
委員の選定理由の公表の有無	有・ 無
公表の方法	
※経過措置期間までに対応致します。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	0 人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による 骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	1 人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	0 人
腹腔鏡下広汎子宮全摘術	13 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0 人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスズマブ静脈内投与の併用療法 切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	0 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	血液透析併用バルーン塞栓動脈内抗がん剤投与(BOAI)、および、放射線治療の併用療法(膀胱がん)	取扱患者数	165人
当該医療技術の概要:①4L-DB catheterの設置: 両側浅大腿動脈アプローチで7Frシースを留置し、Hook型5Frカテーテルを内腸骨動脈に留置後、0.025インチガイドワイヤーを対側上殿動脈に進め、カテーテル交換法で6 Fr 4-lumen balloon catheter(4L-DB catheter)を挿入する。 ガイドワイヤーを上殿動脈末梢に留置したまま、4L-DB catheterを標的血管の上・下膀胱動脈がバルーンの間位置するように留置し、distal、および、proximalのバルーンにCO2: 1.2mlをそれぞれ注入してバルーンを固定する。この後、デジタルサブトラクション血管造影法(digital subtraction angiography: DSA)を用いた血管造影にて、バルーン間のside holeから注入した造影剤が両側上殿動脈に流入していないこと、両側内腸骨動脈に逆流していないこと、および、両側膀胱動脈また膀胱動脈からの腫瘍血管を鮮明に描出することを確認する。 ②シスプラチン動脈内投与: シスプラチンは、4L-DB catheterのside holeを介して投与される。シスプラチン100mgを3-way manifoldを介して左右両側の4L-DB catheterに均等に配分させ、1時間かけて局所注入する。			
医療技術名	PDDを使用する膀胱悪性腫瘍手術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要:生検または手術を行う時に蛍光発色のピークとなるように、生検・手術当日、麻酔前3時間前に20mg/kg (body weight)の5-ALAを経口投与する。生検・手術の際、通常の要領で組織採取または腫瘍摘出を行うとともに、紫外線領域(375-440nm)を選択するフィルターを有する専用ビデオカメラシステムを含めた光力学診断装置を用いて腫瘍の蛍光励起を観察する。この蛍光励起をもとに、小さなsatellite tumorや切除断端腫瘍が残存する可能性の有無を視認し、状況に応じて必要な場合には、組織採取や追加切除を行う。光学的診断の有用性は蛍光励起の程度と採取組織または摘出腫瘍の病理学的診断の対応をもって解析検討する。			
医療技術名	ダヴィンチS手術システムを用いたロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要:小径腎腫瘍に対し、複数の関節を持つロボットアームを有するダヴィンチシステムを用いることにより、腹腔鏡では困難であった腎腫瘍切除後の縫合をスムーズかつ、より安全に施行する。また良好な3D画像を見ながら、適切な切除ラインで腎腫瘍を切除することによって、腫瘍の取り残しの危険性も低減できると考えられる。腎腫瘍に対する根治性と腎機能温存、低侵襲性において有用な治療を実施することを目的とする。 ※ 平成28年4月1日より保険収載			
医療技術名	子宮体がんに対する腹腔鏡下傍大動脈リンパ節生検および廓清術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要:子宮体がん(臨床進行I~II期までの子宮体がんに対する腹腔鏡下傍大動脈リンパ節生検および廓清術を希望する症例)が適応となる。腹腔鏡下手術は、直径5mmから1cmの小穴にトロッカーと呼ばれる煙突のような筒を3-4本挿入し、それからモニターカメラ、鉗子を挿入して手術を行う。			
医療技術名	ダヴィンチS手術システムを用いたロボット支援腹腔鏡下胃切除術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要:ダヴィンチサージカルシステムを用いたロボット支援胃切除術は、三次元画像による良好な視認性と多関節機能を用いた自由な操作性により、従来の腹腔鏡下胃切除術と比較し、より安全で確実な手術の実現が期待されています。胃癌に対する内視鏡手術支援ロボットによる胃切除術では、腹腔鏡下胃切除術と比較して術後合併症発生率が有意に低下し、切除範囲とリンパ節郭清範囲を拡大しても成績は安定している			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	19
2	筋萎縮性側索硬化症	38	57	特発性拡張型心筋症	62
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	22
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	15	60	再生不良性貧血	8
6	パーキンソン病	186	61	自己免疫性溶血性貧血	8
7	大脳皮質基底核変性症	10	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	29
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	9
10	シャルコー・マリー・トゥース病	7	65	原発性免疫不全症候群	1
11	重症筋無力症	32	66	IgA腎症	0
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	0
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	39	68	黄色靱帯骨化症	1
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	57	69	後縦靱帯骨化症	11
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	2
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	0
17	多系統萎縮症	17	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	41	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	0
21	ミトコンドリア病	2	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	10	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	2	83	アジソン病	4
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	52
30	遠位型ミオパチー	3	85	特発性間質性肺炎	21
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	23
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6
34	神経線維腫症	7	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	2	90	網膜色素変性症	0
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	0	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	34
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	6
40	高安動脈炎	2	95	自己免疫性肝炎	24
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	50
42	結節性多発動脈炎	8	97	潰瘍性大腸炎	90
43	顕微鏡的多発血管炎	36	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	6	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	5	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	8	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	4	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	228	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	129	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	7	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	30	107	全身型若年性特発性関節炎	5
53	シェーグレン症候群	129	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	12	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	6
113	筋ジストロフィー	0	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	2
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	18	167	マルファン症候群	9
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	3	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフィロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	2
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	1
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	2	194	ソト症候群	2
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	5
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	6	209	完全大血管転位症	5
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	4	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	2	260	システロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	6	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	4	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	3
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	1
220	急速進行性糸球体腎炎	53	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	9
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	1
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	2
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	2	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	7	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	4	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	33
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	2	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	8

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	退院支援加算2
歯科外来診療環境体制加算	退院支援加算3
特定機能病院入院基本料(一般)7対1	精神疾患診療体制加算1
特定機能病院入院基本料(精神)10対1	精神疾患診療体制加算2
超急性期脳卒中加算	精神科急性期医師配置加算
診療録管理体制加算2	特定集中治療室管理料1
医師事務作業補助体制加算1 75対1	ハイケアユニット入院医療管理料1
急性期看護補助体制加算 50対1	総合周産期特定集中治療室管理料
看護職員夜間配置加算	新生児治療回復室入院医療管理料
療養環境加算	小児入院医療管理料1
重症者等療養環境特別加算	
無菌治療室管理加算1	
無菌治療室管理加算2	
緩和ケア診療加算	
精神科身体合併症管理加算	
精神科リエゾンチーム加算	
医療安全対策加算1	
感染防止対策加算1	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊娠管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	
呼吸ケアチーム加算	
病棟薬剤業務実施加算1	
病棟薬剤業務実施加算2	
データ提出加算2(200床以上)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
高度難聴指導管理料	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
糖尿病合併症管理料	ヘッドアップティルト試験
がん性疼痛緩和指導管理料	長期継続頭蓋内脳波検査
がん患者カウンセリング料1	脳波検査判断料1
がん患者カウンセリング料2	光トポグラフィー
がん患者カウンセリング料3	神経学的検査
外来緩和ケア管理料	補聴器適合検査
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	ロービジョン検査判断料
糖尿病透析予防指導管理料	コンタクトレンズ検査料1
院内トリアージ実施料	小児食物アレルギー負荷検査
外来放射線照射診療料	内服・点滴誘発試験
ニコチン依存症管理料	画像診断管理加算2
がん治療連携計画策定料	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
肝炎インターフェロン治療計画料	CT撮影及びMRI撮影
薬剤管理指導料	冠動脈CT撮影加算
医療機器安全管理料1	心臓MRI撮影加算
医療機器安全管理料2	乳房MRI撮影加算
医療機器安全管理料(歯科)	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
歯科治療総合医療管理料(Ⅰ)及び(Ⅱ)	外来化学療法加算1
持続血糖測定器加算及び皮下連続グルコース測定	無菌製剤処理料
遺伝学的検査	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
検体検査管理加算(Ⅳ)	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
国際標準検査管理加算	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
遺伝カウンセリング加算	集団コミュニケーション療法料
胎児心エコー法	歯科口腔リハビリテーション料2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
認知療法・認知行動療法1	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
医療保護入院等診療料	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
硬膜外自家血注入	植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
エタノールの局所注入(甲状腺)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
エタノールの局所注入(副甲状腺)	大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
透析液水質確保加算1	補助人工心臓
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除(葉以上)を伴うものに限る。)
CAD/CAM冠	体外衝撃波胆石破碎術
歯科技工加算1及び2	腹腔鏡下肝切除術
悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	生体部分肝移植術
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	腹腔鏡下小切開副腎摘出術
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	腹腔鏡下小切開腎部分切除術
羊膜移植術	腹腔鏡下小切開腎摘出術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
網膜再建術	同種死体腎移植術
人工内耳植込術、埋込型骨導補聴器移植術及び埋込型骨導補聴器交換術	生体腎移植術
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)	膀胱水圧拡張術
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	人工尿道括約筋植込・置換術
乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	
胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻増設術、腹腔鏡下胃瘻増設術を含む。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術)	
輸血管理料Ⅰ	
輸血適正使用加算	
貯血式自己血輸血管理体制加算	
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
歯周組織再生誘導手術	
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
麻酔管理料(Ⅰ)	
麻酔管理料(Ⅱ)	
放射線治療専任加算	
外来放射線治療加算	
高エネルギー放射線治療	
1回線量増加加算	
強度変調放射線治療(IMRT)	
画像誘導放射線治療加算(IGRT)	
定位放射線治療	
画像誘導密封小線源治療加算	
病理診断管理加算2	
クラウン・ブリッジ維持管理料	
歯科矯正診断料	
顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。) (H26/4/1～)	・
・光トポグラフィー(H26/4/1～)	・
・ダヴィンチS手術システムを用いたロボット支援腹腔鏡 下腎部分切除術(H28/4/1～)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	24回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 17 例 / 剖検率 4.1 %

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
日本人1型糖尿病の包括的データベースの構築と臨床研究への展開に関する研究	花房俊昭	糖尿病代謝・内分泌内科	5,400,000	委 国際医療研究開発事業
網羅的抗体解析を用いた劇症1型糖尿病早期診断のための特異的血清マーカーの開発	花房俊昭 佐野寛行	糖尿病代謝・内分泌内科	1,000,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
網羅的抗体解析を用いた劇症1型糖尿病早期診断のための特異的血清マーカーの開発	花房 俊昭	糖尿病代謝・内分泌内科	1,100,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
新たな膵α細胞モデルを用いた1型糖尿病におけるグルカゴン分泌異常のメカニズムの解明	三柴裕子	糖尿病代謝・内分泌内科	900,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
糖尿病発症予防プログラム作成に向けた大規模データベースの構築－筋肉量に着目して	谷本啓爾	糖尿病代謝・内分泌内科	700,000	補 科学研究費補助事業若手研究(B)
摂食コントロールによる新しい炎症性腸疾患治療	岡田 俊彦	消化器内科	1,700,000	補 科学研究費補助事業若手研究(B)
唾液におけるメタボローム解析を用いたIPMN症例の悪性度の解明	小倉 健	消化器内科	500,000	補 科学研究費補助事業若手研究(B)
血管内皮前駆細胞を用いた徐放化薬剤伝達システムによる炎症性腸疾患の治療法の開発	柿本 一城	消化器内科	1,300,000	補 科学研究費補助事業若手研究(B)
IgG4関連の冠動脈・心筋・心膜疾患に関する研究	石坂 信和	循環器内科	800,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
高血圧発症ApoE欠損マウスへのスタチン投与による腎保護のメカニズムの検討	星賀 正明	循環器内科	100,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
心筋症例に対するT2*緩和時間を用いた心臓MRIによる心臓鉄量の評価	神崎 裕美子	循環器内科	800,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
インフルエンザ罹患後の症候性・無症候性心機能障害の発症頻度とその経過	伊藤 隆英	循環器内科	1,900,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
心サルコイドーシスにおける帯状疱疹ウイルス感染の関与の検討	寺崎 文生	循環器内科	1,300,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
心筋症例における血清FGF23・α-Klothoと心リモデリングの関連について	森田 英晃	循環器内科	1,700,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
医師の利他的行動における動機探索とプロフェッショナルリズム教育への応用に関する研究	鈴木富雄	総合診療科	800,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
Warburg効果関連microRNAおよび標的遺伝子群の同定と臨床応用の確立	内山和久	一般・消化器・小児外科	1,300,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)

小計 16

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
劇症肝炎におけるキマーゼ阻害剤の有効性の検討	林道廣	一般・消化器・小児外科	1,100,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
急性肝不全における肥満細胞セリンプロテアーゼ(キマーゼ)の役割	廣川文鋭	一般・消化器・小児外科	1,000,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
キマーゼ阻害剤・MMP阻害薬を用いた肝類洞閉塞症候の予防および治療効果の検討	米田浩二	一般・消化器・小児外科	1,200,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
キマーゼの非アルコール性脂肪肝炎における作用メカニズムの解析	田代圭太郎	一般・消化器・小児外科	1,200,000	補 科学研究費補助事業若手研究(B)
乳癌組織における腫瘍内浸潤樹状細胞の成熟化のメカニズムと予後との関連	岩本充彦	乳腺・内分泌外科	300,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
生体消化管吻合における新規縫合糸の安全性と有効性に関する実験的研究	李相雄	一般・消化器・小児外科	600,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
移植拒絶反応を抗原特異的に制御する機構の解明	井上善博	一般・消化器・小児外科	500,000	補 科学研究費補助事業若手研究(B)
プロテオーム解析による抗癌剤耐性獲得の新規診断マーカーの開発	田中覚	乳腺・内分泌外科	1,000,000	補 科学研究費補助事業若手研究(B)
脂肪性肝炎に起因する肝癌の切除成績	林道廣	一般・消化器・小児外科	1,000,000	補 公益財団法人三井生命厚生財団
腹腔鏡手術における術前内視鏡点墨クリップの開発	田代圭太郎	一般・消化器・小児外科	500,000	補 公益財団法人内視鏡医学研究振興財団
ヒト心臓周囲脂肪組織由来細胞を用いた心血管組織再生治療のための研究	勝間田敬弘	胸部外科	1,700,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
自己組織に置換され、伸長する心臓修復パッチの開発	根本慎太郎	胸部外科	49,892,988	委 医工連携事業化推進事業
絹フィブリン基盤メディカルシートデバイスの創製と心臓組織修復材料への応用	根本慎太郎	胸部外科	6,924,000	委 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業
肺循環評価の新しい評価法の開発と診断応用-波動解析法を応用した肺動脈閉鎖度の評価	根本慎太郎	胸部外科	1,000,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
小児心臓血管外科領域における「吸収-再生-成長」可能なパッチ材料の開発	小澤英樹	胸部外科	1,800,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
虚血心筋に特異的に結合するペプチドを用いた薬物送達法の開発と心不全治療への応用	神吉佐智子	胸部外科	800,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)
Blalock-Taussing shuntの人工血管流量を調節するデバイスの開発	佐々木智康	胸部外科	900,000	補 科学研究費補助事業若手研究(B)
創薬分子デザインによる悪性グリオーマの5-ALA光線力学診断・治療の革新	黒岩敏彦	脳神経外科・脳血管治療科	1,200,000	補 科学研究費補助金基礎研究(C)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脳放射線壊死の病態解明と新規治療法の確立	宮武伸一	がんセンター	3,600,000	科学研究費補助 補 事業若手研究 (B)
血管内治療用ロボットの開発	宮地 茂	脳神経外科 ・脳血管治療科	1,400,000	科学研究費補助 補 金基礎研究(C)
次世代の5-ALA光線力学診断および治療機器の開発	梶本 宜永	脳神経外科 ・脳血管治療科	1,200,000	科学研究費補助 補 金基礎研究(C)
腫瘍指向性ホウ素クラスター修飾コウジ酸を用いたホウ素中性子補足療法の有用性	川端 信司	脳神経外科 ・脳血管治療科	1,300,000	科学研究費補助 補 金基礎研究(C)
難治性放射線壊死の克服 ベバシズマブ治療とbeyond bevacizumab	古瀬 元雅	脳神経外科 ・脳血管治療科	1,400,000	科学研究費補助 補 金基礎研究(C)
5-ALA光線力学治療によるグリオーマ幹細胞の治療抵抗性の克服	鯨淵 誉宏	脳神経外科 ・脳血管治療科	1,000,000	科学研究費補助 補 事業若手研究 (B)
脳腫瘍治療前後のPET代謝画像を用いた画像解析による早期治療効果判定法の開発	松下葉子	脳神経外科 ・脳血管治療科	1,300,000	科学研究費補助 補 金基礎研究(C)
新規ホウ素化ポルフィリンの光線力学的治療およびホウ素中性子補足療法への有用性	平松 亮	脳神経外科 ・脳血管治療科	1,700,000	科学研究費助成 補 事業若手研究 (B)
ヘパラン硫酸脱硫酸酵素に着目した椎間板性の病態解明と治療戦略	根尾昌志	整形外科	800,000	科学研究費補助 補 金基礎研究(C)
半月板損傷におけるヘパラン硫酸およびその酵素の働きと新規治療法の開発	大槻周平	整形外科	1,700,000	科学研究費補助 補 金基礎研究(C)
腎・泌尿器系の希少・難治性疾患に関する診断基準・診療ガイドラインの確立	芦田 明	小児科学	600,000	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治
小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患における包括的な診断・診療ガイドライン作成に関する研究	玉井 浩	小児科学	120,000	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治
小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包括するガイドラインの確立に関する研究	玉井 浩	小児科学	200,000	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治
小児脂肪肝性疾患の抗酸化療法における新規酸化ストレス評価法の検討	玉井 浩	小児科	1,800,000	科学研究費助成 補 事業基盤研究 (C)
炎症収束性脂質メディエーターは新生仔ラットCLD進展を阻止し重症度を緩和する	荻原 享	新生児科	1,000,000	科学研究費助成 補 事業基盤研究 (C)
小児炎症性腸疾患における血中インフリキシマブ、抗インフリキシマブ抗体の測定意義	青松 友槻	小児科	1,000,000	科学研究費助成 補 事業若手研究 (C)
卵巣癌の抗癌剤耐性評価システムと再発早期発見ツールの構築—個別化治療へ向けて—	大道 正英	婦人科・腫瘍科	800,000	科学研究費助成 補 事業挑戦的萌芽 研究
卵巣癌のCD24を介したEMT標的分子の解明とdrug delivery治療	寺井 義人	婦人科・腫瘍科	900,000	科学研究費助成 補 事業基盤研究 (C)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
マイクロRNAを介した子宮頸癌の進展機構の解明と分子標的治療への応用	林 正美	産科・生殖医学科	1,500,000	科学研究費助成補 事業基盤研究 (C)
卵巣癌分泌エキソソームによる癌微小環境制御機構の解明と次世代がん治療法の開発	佐々木 浩	婦人科・腫瘍科	1,000,000	科学研究費助成補 事業基盤研究 (C)
抗癌剤誘発性の卵巣機能不全に対するテストステロンを用いた予防法確立に向けた検討	田辺 晃子	産科・生殖医学科	1,300,000	科学研究費助成補 事業基盤研究 (C)
卵巣癌における腹型エストロゲン受容体GPR30を標的としたEMT現象の制御	藤原 聡枝	婦人科・腫瘍科	1,400,000	科学研究費助成補 事業基盤研究 (C)
子宮内膜癌における浸潤・転移を制御する新たな細胞外基質蛋白の解析	田中 良道	婦人科・腫瘍科	1,400,000	科学研究費補助補 事業若手研究 (B)
卵巣凍結融解は胚のゲノムインプリンティング異常の原因となりうるか?	林 篤史	産科・生殖医学科	900,000	科学研究費補助補 事業若手研究 (B)
不育症に対する新たな治療～骨髄由来血管内皮前駆細胞による血管再生と新規抗血栓薬～	藤田 太輔	産科・生殖医学科	900,000	科学研究費補助補 事業若手研究 (B)
紫外線性DNA損傷修復異常で発症する遺伝性光線過敏症の放射線安全性に関する研究	森脇真一	皮膚科学	1,900,000	科学研究費助成補 事業基盤研究 (C)
アクアポリン4の黄斑浮腫への関与と、その制御による治療	喜田照代	眼科	1,800,000	科学研究費助成補 事業基盤研究 (C)
特発性黄斑上膜の発症機序に関する基礎的研究	池田恒彦	眼科	1,300,000	科学研究費助成補 事業基盤研究 (C)
視神経浮腫へのアクアポリンの関与と、その制御による治療効果の検討	奥 英弘	眼科	1,300,000	科学研究費助成補 事業基盤研究 (C)
糖尿病網膜症に対する局所治療薬の開発	福本雅格	眼科	1,400,000	学術研究助成基金 助成金若手研究 (B)
スギ花粉症に対する経リンパ節免疫療法の治療応用ー皮下および舌下免疫療法との比較	寺田哲也	耳鼻咽喉科	1,100,000	科学研究費助成補 事業基盤研究 (C)
色素性乾皮症のiPS細胞を用いた病態解明と治療法の開発	森脇真一	皮膚科学	2,000,000	委 日本医療研究開発機構 分担者 委託研究開発費
皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究	森脇真一	皮膚科学	1,200,000	補 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業)(難)
ラマン分光装置を用いたバリア機能障害を伴う皮膚疾患における角層天然保湿因子の解析	谷崎英昭	皮膚科学	1,500,000	補 科学研究費補助事業若手研究 (B)
皮膚バリア機能障害を伴う皮膚疾患を対象としたラマン分光装置を用いた角層天然保湿因子の解析	谷崎英昭	皮膚科学	1,000,000	補 2015年度コスメトロジー研究振興財団助成
自己Treg培養とCD28SAによる新規免疫寛容とMF1導入による腎移植永久生着	東 治人	腎泌尿器外科	1,600,000	補 科学研究費助成事業挑戦的萌芽研究

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
低分子LPS様修飾因子の翻訳後修飾による進行性前立腺癌の治療	稲元 輝生	腎泌尿器外科	800,000	科学研究費補助事業若手研究(B)
低分子ユビキチン様修飾因子を利用した進行性前立腺癌患者の完治の試み	稲元 輝生	腎泌尿器外科	500,000	一般財団法人鈴木泌尿器医学振興財団
癌発育制御型microRNA-145の総量回復によるヒト膀胱癌マウス異種同所移植モデル治療	稲元 輝生	腎泌尿器外科	2,000,000	補 公益財団法人武田科学振興財団
再燃前立腺癌への挑戦～脂肪幹細胞ナDDS技術を駆使した新規テラメイト療法～	高原 健	腎泌尿器外科	800,000	補 科学研究費助成事業基盤研究(C)
前立腺癌への革新的挑戦-体性間葉系幹細胞を用いたテラメイト療法中性子捕捉療法(BNCT)の確立-	高原 健	腎泌尿器外科	500,000	補 公益財団法人前立腺研究財団
再燃前立腺癌への革新的挑戦	高原 健	腎泌尿器外科	1,000,000	補 公益財団法人大阪コミュニティ財団
前立腺癌選択的硼素中性子捕捉療法(BNCT)の新規開発 -ヒト脂肪組織由来幹細胞を用いたテラメイト療法-	高原 健	腎泌尿器外科	1,000,000	補 公益財団法人佐川がん研究振興財団
トレーサビリティの確保された線源と画像誘導を利用した高線量率小線源治療の標準化と高度化の研究	吉田 謙	放射線医学	400,000	委 日本医療研究開発機構 分担者委託研究開発費
骨盤腫瘍における標本体積内同時ブースト強度変調小線源治療の開発	吉田 謙	放射線科	1,300,000	補 科学研究費助成事業基盤研究(C)
逐次近似法を用いた腹部CT低線量撮影における適切な線量の検討	中本 篤	放射線科	500,000	補 科学研究費補助事業若手研究(B)
低酸素細胞標識PET分子イメージングで、KORTUCの線量分布向上を可視化研究	新保大樹	放射線科	1,300,000	補 科学研究費助成事業挑戦の萌芽研究
アクロメリン酸Aによる難治性疼痛モデルを用いた難治性疼痛のメカニズムの解明	南 敏明	麻酔科	600,000	補 科学研究費助成事業基盤研究(C)
全身麻酔による呼吸抵抗及び呼吸リアクタンスの変化	中平淳子	麻酔科	900,000	補 科学研究費助成事業挑戦の萌芽研究
nSR100を標的とする小細胞肺癌治療薬の探索-スクリーニング(S1)	下條正仁	麻酔科学	16,253,050	委 日本医療研究開発機構 代表者委託実験調査費
ボツリヌス毒素を用いた痙攣抑制による中枢神経の組織構造変化に関する研究	佐浦隆一	リハビリテーション医学教室	300,000	補 科学研究費助成事業挑戦の萌芽研究
多発神経障害に対する超音波ガイドを用いた神経近接法による神経伝導検査の研究	仲野春樹	リハビリテーション医学教室	300,000	補 科学研究費助成事業基盤研究(C)
分子標的薬の治療提案を目指した進行大腸癌に対する病理評価の試み	廣瀬 善信	病理学	1,200,000	補 科学研究費助成事業基盤研究(C)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
切除不能進行・再発胃がんに対する個別化治療と最適化標準治療に関する研究	後藤昌弘	化学療法センター	600,000	委 日本医療研究開発機構
高度腹膜転移胃癌に対する標準化学療法の確立に関する研究	後藤昌弘	化学療法センター	500,000	委 日本医療研究開発機構
抗癌剤による悪心・嘔吐対策時のデキサメタゾンの薬物動態の検討	宮本敬大	消化器内科（化学療法センター）	1,000,000	補 大阪難病研究財団
免疫グロブリン大量療法の効率化を目標とした7α活性化マクロファージ抑制法の開発	能見 勇人	血液浄化センター	1,400,000	補 科学研究費助成事業基盤研究(C)
ERストレス誘導性細胞死の制御を標的としたNSAIDs起因性小腸潰瘍治療戦略	小嶋 融一	消化器内視鏡センター	1,200,000	補 科学研究費助成事業若手研究(B)
CCl1阻害剤を用いた肝細胞癌のマクロファージ治療	朝井 章	中央検査部	1,700,000	補 科学研究費助成事業若手研究(B)
質量イメージングによるアミロイド病変局在性異常修飾蛋白の同定とフィブリル形成機序	中西 豊文	中央検査部	1,000,000	補 科学研究費助成事業基盤研究(C)
アトピー性皮膚炎女性の月経周期におけるスキンケア・メイクアップに焦点化した看護	カルデナス暁東	看護学部	200,000	補 科学研究費助成事業基盤研究(C)

計 95

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	N. Kanatsuna,	Department of Internal Medicine (I), Osaka Medical College, Osaka, Japan.	Doubly Reactive INS-IGF2 Autoantibodies in Children with Newly Diagnosed Autoimmune (type 1) Diabetes.	Scandinavian journal of immunology. 2015 Oct;82 (4) :361-9.
2	Tanimoto K,	Department of Internal Medicine (I), Osaka Medical College, Japan.	Reversible hypopituitarism with pituitary tuberculoma.	Intern Med. 2015;54 (10) :1247-51
3	Fujisawa R,	Department of Internal Medicine (I), Osaka Medical College, Japan.	Low programmed cell death-1 (PD-1) expression in peripheral CD4+ T cells in Japanese patients with autoimmune type 1 diabetes	Clinical & Experimental Immunology. 2015 Jun; 180 (3) :452-457
4	Nakajima H,	Department of Internal Medicine, Seikeikai Hospital, Sakai, Japan ; Department of Internal Medicine I, Osaka Medical College, Takatsuki, Japan.	Refractory Cryptococcus neoformans meningoencephalitis in an immunocompetent patient: Paradoxical antifungal therapy-induced clinical deterioration related to an immune response to cryptococcal organisms.	Case Rep Neurol 7:204-8. 2015
5	Tamura Y,	Division of Internal Medicine, Osaka Medical College Hospital, 2-7 Daigakumachi, Takatsuki, Osaka, 569-8686, Japan.	Retrospective analysis of the efficacy of chemotherapy and molecular targeted therapy for advanced pulmonary pleomorphic carcinoma	BMC Res Notes (18;8, 800, 2015)
6	Kimura Y,	リウマチ膠原病内科	Periodontal Pathogens participate in synovitis in patients with rheumatoid arthritis in clinical remission: a retrospective case-control study.	Rheumatology (Oxford) 54 (12) :2257-2263 2015. 12
7	Wada Y,	リウマチ膠原病内科	Therapeutic drug monitoring of cyclosporine microemulsion in patients with corticosteroid-resistant systemic lupus erythematosus.	Mod Rheumatol 25 (5) : 708-713, 2015. 09.
8	Kotani T,	リウマチ膠原病内科	Increased Serum LIGHT Levels Correlate with Disease Progression and Severity of Interstitial Pneumonia in Patients with Dermatomyositis: A Case Control Study.	PLoS One 10 (10) : e0140117, 2015. 10.
9	都木 航	第二内科	EUS-guided cholecystoduodenostomy for acute cholecystitis with an anti-stent migration and anti-food impaction system; a pilot study.	Therap Adv Gastroenterol. 2016 Jan; 9 (1) : 19-25.

10	原田 智	第二内科	Autophagy Deficiency Diminishes Indomethacin-Induced Intestinal Epithelial Cell Damage through Activation of the ERK/Nrf2/HO-1 Pathway.	J Pharmacol Exp Ther 2015; 355 (3) : 353-61
11	小倉 健	第二内科	Hole-making technique for the treatment for acute pancreatitis due to placement of a fully covered duodenal metallic stent.	Endoscopy 2015; 47 (S 01) : E486-E487
12	小倉 健	第二内科	Stent length is impact factor associated with stent patency in endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy.	J Gastroentero. Hepatol 2015; 30 (12) : 1748-52
13	Shoko Nakayama,	Department of Internal Medicine (I), Division of Mathematics, Division of Surgical Pathology, Osaka Medical College	Dermatopathic Lymphadenopathy With Increased IgG4-Positive Plasma Cells	Medicine 94 (22) : e866 2015
14	Kojima Y,	Second Department of Internal Medicine, Osaka Medical College	Effect of long-term proton pump inhibitor therapy and healing effect of irsogladine on nonsteroidal anti-inflammatory drug-induced small-intestinal lesions in healthy volunteers.	J Clin Biochem Nutr. 2015;57 (1) :60-5. doi: 10.3164/jcbrn.15-32
15	Morita H,	循環器内科	Atypical symptoms of a fatal myocardial infarction in an elderly patient.	Geriatr Gerontol Int. 2016 Feb;16 (2) :286-7.
16	Ozeki M,	循環器内科	Acute cholecystitis mimicking or accompanying cardiovascular disease among Japanese patients hospitalized in a Cardiology Department.	BMC Res Notes. 2015 Dec 19;8:805.
17	Kanzaki Y,	循環器内科	Presence of Postsystolic Shortening Increases the Likelihood of Coronary Artery Disease: A Rest Electrocardiography-Gated Myocardial Perfusion SPECT Study.	J Nucl Med. 2015 Dec;56 (12) :1889-94.
18	Morita H,	循環器内科	Gender Specific Association between Serum Fibroblast Growth Factor 23/ α -Klotho and Coronary Artery and Aortic Valve Calcification.	J Atheroscler Thromb. 2015;22 (12) :1338-46.
19	Fujita S,	循環器内科	Platelet volume indices are associated with systolic and diastolic cardiac dysfunction, and left ventricular hypertrophy.	BMC Cardiovasc Disord. 2015 Jun 16;15:52.
20	Miyamura M,	循環器内科	Circulating Fibroblast Growth Factor 23 Has a U-Shaped Association With Atrial Fibrillation Prevalence.	Circ J. 2015;79 (8) :1742-8.

21	Ishizaka N,	循環器内科	Sudden Cardiac Death Due To IgG4-Related Disease.	Arch Pathol Lab Med. 2015 May;139 (5) :571.
22	Hato-Oka J,	循環器内科	Spontaneous thyrocervical trunk to left circumflex artery communication.	Intern Med. 2015;54 (8) :985-6.
23	Takeda Y,	循環器内科	The relationship of fibroblast growth factors 21 and 23 and α -Klotho with platelet activity measured by platelet volume indices.	Clin Chem Lab Med. 2015 Sep 1;53 (10) :1569-74.
24	Akira Ukimura,	内科学 (総合診療科)	The Neuraminidase Inhibitor Peramivir Ameliorates Myocarditis Induced by Influenza A (H1N1) virus in a Murine Model.	Clin Microbial, 4:201:2015
25	Nishiguchi M,	Department of Neuropsychiatry, Osaka Medical College, Psychological Service and Counseling Center, Kansai University,	Increases in iPS Transcription Factor (Oct4, Sox2, c-Myc, and Klf4) Gene Expression after Modified Electroconvulsive Therapy.	Psychiatry Investigation. Oct;12 (4) :532-7. 2015
26	Kaneko T,	Department of Neuropsychiatry, Osaka Medical College, Psychological Service and Counseling Center, Kansai University,	Analysis of Human Blood During Electroconvulsive Therapy.	Journal of ECT. Dec;31 (4) :234-7. 2015
27	Satoru Tanaka	1Department of Breast and Endocrine Surgery, Osaka Medical College Hospital, Osaka, Japan	Phase II study of neoadjuvant anthracycline-based regimens combined with nanoparticle albumin-bound paclitaxel and trastuzumab for human epidermal growth factor receptor 2-positive operable breast cancer	Clinical Breast Cancer 15 (3) :191-196, 2015. 06
28	Masashi Yamamoto	Department of General and Gastroenterological Surgery, Osaka Medical College	Does transumbilical incision influence surgical site infection rates of the laparoscopic sigmoidectomy and anterior resection?	The American Surgeon 81 (12) :1232-1236, 2015. 12
29	Wataru Osumi	Department of General and Gastroenterological Surgery, Department of Pharmacology, Department of Anatomy and cell Biology, Laboratory for Innovative Medicine, Graduate School of Medicine, Osaka Medical College	Recombinant human soluble thrombomodulin improved lipopolysaccharide/D-galactosamine-induced acute liver failure in mice	Journal of Pharmacological Sciences 129 (4) :233-239, 2015. 12
30	Fumitoshi Hirokawa	Department of General and Gastroenterological Surgery, Osaka Medical College	Risk factors and patterns of early recurrence after curative hepatectomy for hepatocellular carcinoma	Surgical Oncology 25 (1) :24-29, 2016. 01

31	Junji Okuda	Department of General and Gastroenterological Surgery, Osaka Medical College	Laparoscopic resection of transverse colon cancer at splenic flexure: technical aspects and results	Updates in Surgery 68 (1) :71-75, 2016. 03
32	佐藤 澄	Department of Thoracic Surgery, Osaka Medical College Hospital	Rare Pulmonary Metastasis From Thyroid Mucosa-Associated Lymphoid Tissue Lymphoma	Ann Thorac Surg 2015;100:700-702
33	文元 聡	Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Osaka Medical College	Right intra lobar Pulmonary sequestration with feeding artery arising abdominal aorta	J Cardiothrac Surg 2015;10;86
34	Motomasa Furuse,	Department of Neurosurgery, Osaka Medical College	Intratumoral and peritumoral post-irradiation changes, but not viable tumor tissue, may respond to bevacizumab in previously irradiated meningiomas	Radiation Oncology (10, 2015)
35	Furuse M,	Department of Neurosurgery, Osaka Medical College	Delayed brain radiation necrosis: pathological review and new molecular targets for treatment	Med Mol Morphol 2015 Oct 13 (Epub ahead of print)
36	Mihata T	Department of Orthopedic Surgery, Osaka Medical College, Orthopaedic Biomechanics Laboratory, VA Long Beach Healthcare System and University of California	Biomechanical Effect of Thickness and Tension of Fascia Lata Graft on Glenohumeral Stability for Superior Capsule Reconstruction in Irreparable Supraspinatus Tears.	Arthroscopy. 2016 Mar;32 (3) :418-26.
37	Mihata T	Department of Orthopedic Surgery, Osaka Medical College, Orthopaedic Biomechanics Laboratory, VA Long Beach Healthcare System and University of California	Biomechanical Effects of Acromioplasty on Superior Capsule Reconstruction for Irreparable Supraspinatus Tendon Tears.	Am J Sports Med. 2016 Jan;44 (1) :191-7.
38	Otsuki S	Department of Orthopedic Surgery, Osaka Medical College	Correlation between varus knee malalignment and patellofemoral osteoarthritis.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2016 Jan;24 (1) :176-81.
39	Fujishiro T	Department of Orthopedic Surgery, Osaka Medical College	Accuracy of Pedicle Screw Placement with Robotic Guidance System: A Cadaveric Study.	Spine (Phila Pa 1976). 2015 Dec;40 (24) :1882-9.
40	Shima H	Department of Orthopedic Surgery, Osaka Medical College	Surgical reduction and ligament reconstruction for chronic dorsal dislocation of the lesser metatarsophalangeal joint associated with hallux valgus.	J Orthop Sci. 2015 Nov;20 (6) :1019-29

41	Mihata T	Department of Orthopedic Surgery, Osaka Medical College, Orthopaedic Biomechanics Laboratory, VA Long Beach Healthcare System and University of California	Effect of Anterior Capsular Laxity on Horizontal Abduction and Forceful Internal Impingement in a Cadaveric Model of the Throwing Shoulder.	Am J Sports Med. 2015 Jul;43 (7) :1758-63.
42	Yasuda T	Department of Orthopedic Surgery, Osaka Medical College	Proximal supination osteotomy of the first metatarsal for hallux valgus.	Foot Ankle Int. 2015 Jun;36 (6) :696-704.
43	Hoshiyama Y	Department of Orthopedic Surgery, Osaka Medical College	Chondrocyte clusters adjacent to sites of cartilage degeneration have characteristics of progenitor cells.	J Orthop Res. 2015 Apr;33 (4) :548-55.
44	Fukui M,	大阪医科大学	Serum N-Terminal Pro-B-Type Natriuretic Peptide (NTproBNP) Levels Are Elevated During the Acute Phase of Acute Encephalopathy-Associated Virus Infection.	J Child Neurol. Vol. 30;823-827:2015
45	Takitani K,	大阪医科大学	Altered retinol status and expression of retinol-related proteins in streptozotocin-induced type 1 diabetic model rats.	J Clin Biochem Nutr. (56, 3, 195-200, 2015)
46	Shimakawa S,	大阪医科大学	ACTH therapy on intractable epilepsy in Hemiconvulsion-Hemiplegia-Epilepsy syndrome.	Brain Dev. (37, 7, 733-7, 2015)
47	Fukui M,	大阪医科大学	Serum N-Terminal Pro-B-Type Natriuretic Peptide (NTproBNP) Levels Are Elevated During the Acute Phase of Acute Encephalopathy-Associated Virus Infection.	J Child Neurol. (30, 7, 823-7, 2015)
48	Shimakawa S,	大阪医科大学	ACTH therapy on intractable epilepsy in Hemiconvulsion-Hemiplegia-Epilepsy syndrome.	Brain Dev. 2015 Aug;37 (7) :733-7.
49	Nakamura Y	Department of Obstetrics and Gynecology Osaka Medical College	Analysis of the Methylation Rate of the Androgen Receptor Promoter Region in Granulosa Cells in Moderate to Severe Endometriosis Patients Undergoing Controlled Ovarian Hyperstimulation.	J-Reprod Endocrinol & Infertil. (1-1, 5, 2015)
50	Nakai G	Department of Obstetrics and Gynecology Osaka Medical College	A Case of Bilateral Decidualized Endometriomas during Pregnancy: Radiologic-pathologic Correlation.	Kobe J Med Sci. (61-2, E40-6, 2015)
51	Yamada T	Department of Obstetrics and Gynecology Osaka Medical College	Mitotically active cellular fibroma of the ovary: a case report and literature review.	J Ovarian Res. (8, 65, 2015)

52	Tanaka T	Department of Obstetrics and Gynecology Osaka Medical College	CD24 expression as a marker for predicting clinical outcome and invasive activity in uterine cervical cancer.	Oncol Rep. (34:5, 2282-8, 2015)
53	Nakamura M	Department of Obstetrics and Gynecology Osaka Medical College	Hepatocyte growth factor secreted by ovarian cancer cells stimulates peritoneal implantation via the mesothelial-mesenchymal transition of the peritoneum.	Gynecol Oncol. (139:2, 345-54, 2015)
54	Nakai G	Department of Obstetrics and Gynecology Osaka Medical College	Uterine Intravenous Leiomyomatosis with Cardiac Extension: Radiologic Assessment with Surgical and Pathologic Correlation.	Case Rep Obstet Gynecol. (2015, 576743, 2015)
55	Ono YJ,	Department of Obstetrics and Gynecology Osaka Medical College	Met Signaling Cascade Is Amplified by the Recruitment of Phosphorylated Met to Lipid Rafts via CD24 and Leads to Drug Resistance in Endometrial Cancer Cell Lines.	Mol Cancer Ther. (14:10, 2353-63, 2015)
56	Fujiwara S	Department of Obstetrics and Gynecology Osaka Medical College	Palonosetron versus granisetron in combination with aprepitant for the prevention of chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients with gynecologic cancer.	J Gynecol Oncol. (26:4, 311-319, 2015)
57	Tanaka T	Department of Obstetrics and Gynecology Osaka Medical College	Preoperative MRI and intraoperative frozen section diagnosis of myometrial invasion in patients with endometrial cancer.	Int J Gynecol Cancer. (25:5, 879-83, 2015)
58	Ono YJ,	Department of Obstetrics and Gynecology Osaka Medical College	Estradiol-mediated hepatocyte growth factor is involved in the implantation of endometriotic cells via the mesothelial-to-mesenchymal transition in the peritoneum.	Am J Physiol Endocrinol Metab. (308:11, E950-9, 2015)
59	Tajiri K,	Department of Ophthalmology, Osaka Medical College	Vitreotomy for Proliferative Diabetic Retinopathy Associated with Klinefelter Syndrome.	Case Rep Ophthalmol. 2015 Dec 2;6(3):420-6.
60	Ueki M,	Department of Ophthalmology, Department of Pathology, Osaka Medical College	Comparison of histopathological findings between idiopathic and secondary epiretinal membranes.	Int Ophthalmol. 2016 Feb 8. [Epub ahead of print]
61	Morishita S,	Department of Ophthalmology, Osaka Medical College	Intravitreal Luxated Lens stuck on the optic disc: a case report.	J Med Case Rep. 2016 Jan 22;10:21. doi: 10.1186/s13256-016-0807-9.
62	Kida T,	Department of Ophthalmology, Osaka Medical College	Cotton Wool Spots after Anti-Vascular Endothelial Growth Factor Therapy for Macular Edema Associated with Central Retinal Vein Occlusion.	Ophthalmologica. 2016;235(2):106-13.
63	Tajiri K,	Department of Ophthalmology, Department of Pathology, Osaka Medical College, Nakamura Eye Clinic	Expression of a hyaluronic acid-binding proteoglycan (versican) in the cynomolgus monkey eye.	Int Ophthalmol. 2016 Jan 16. [Epub ahead of print]

64	Kida T.	Department of Ophthalmology, Osaka Medical College	NADPH Oxidase-Mediated ROS Production Determines Insulin's Action on the Retinal Microvasculature.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2015 Oct;56(11):6754-61.
65	Oku H.	Department of Ophthalmology, Osaka Medical College	Nitric Oxide Increases the Expression of Aquaporin-4 Protein in Rat Optic Nerve Astrocytes through the Cyclic Guanosine Monophosphate/Protein Kinase G Pathway.	Ophthalmic Res. 2015;54(4):212-21.
66	Mimura M.	Department of Ophthalmology, Osaka Medical College	Indications for and effects of Nunchaku-style silicone tube intubation for primary acquired lacrimal drainage obstruction.	Jpn J Ophthalmol. 2015 Jul;59(4):266-72. doi: 10.1007/s10384-015-0381-5. Epub 2015 Apr 28.
67	Kojima S.	Department of Ophthalmology, Osaka Medical College	Effects of Gelatin Hydrogel Loading Mitomycin C on Conjunctival Scarring in a Canine Filtration Surgery Model.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2015 Apr;56(4):2601-5. doi: 10.1167/iovs.15-16486.
68	Mimura M.	Department of Ophthalmology, Osaka Medical College, Department of Ophthalmology, Osaka Kaisei Hospital	Effect of rebamipide ophthalmic suspension on the success of lacrimal stent intubation.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2016 Feb;54(2):385-9. doi: 10.1007/s00417-015-3190-0. Epub 2015 Oct 20.
69	Ikeda T.	Department of Ophthalmology, Osaka Medical College, Nakamura Eye Clinic, Nagano, Japan. Nakano Eye Clinic, Kyoto, Japan. Department of Pharmacology, Osaka	The role of tryptase and anti-type II collagen antibodies in the pathogenesis of idiopathic epiretinal membranes.	Clin Ophthalmol. 2015 Jun 29;9:1181-6. doi: 10.2147/OPTh.S82015. eCollection 2015.
70	Kurusu Y.	Pathology, Dermatology	Immunohistochemical findings and differential diagnosis of papillary-type cutaneous verrucous carcinoma of the neck: A case report.	Oncol Lett 10:3823-5, 2015
71	Moriwaki S	Dermatology	Human DNA repair disorders in dermatology: A historical perspective, current concepts and new insight	J Derm Sci 81:77-84, 2016
72	Teruo Inamoto	Osaka Medical College Department of Urology	Intravesical administration of exogenous microRNA-145 as a therapy for mouse orthotopic human bladder cancer xenograft.	Oncotarget. 6(25):21628-35, 2015.
73	Takahara K	Osaka Medical College Department of Urology	The Anti-Proliferative Effect of Boron Neutron Capture Therapy in Prostate Cancer Xenograft Model.	PLoS One 10(9):e0136981, 2015
74	Teruo Inamoto	Osaka Medical College Department of Urology	Editorial Comment to Urethra-sparing high-intensity focused ultrasound for localized prostate cancer: Functional and oncological outcomes.	Int J Urol. 22(15):1050, 2015
75	Ken Yoshida	Department of Radiology, Osaka Medical College Takatsuki, Japan	Treatment results of image-guided high-dose-rate interstitial brachytherapy for pelvic recurrence of uterine cancer	Brachytherapy. 14(4):440-448, 2015

76	Go Nakai	Department of Radiology, Osaka Medical College Takatsuki, Japan	A Case of Bilateral Decidualized Endometriomas during Pregnancy: Radiologic-pathologic Correlation	Kobe Journal of Medical Sciences, 61 (2), 2015
77	Atsushi Nakamoto	Department of Radiology, Osaka Medical College Takatsuki, Japan	Clinical evaluation of image quality and radiation dose reduction in upper abdominal computed tomography using model-based iterative reconstruction; comparison with filtered back projection and adaptive statistical iterative reconstruction	European Journal of Radiology, 84:1715-1723, 2015
78	Hiroshi Juri	Department of Radiology, Osaka Medical College Takatsuki, Japan	Detection of bladder cancer: comparison of low-dose scans with AIDR 3D and routine-dose scans with FBP on the excretory phase in CT urography	Br J Radiol : 89 (1058), 2016
79	尾本 遼	麻酔科	Comparison of mechanisms of allodynia induced by acromelic acid A between early and late phases	European Journal of Pharmacology 760, 42-48, 2015
80	三原良介	麻酔科	The effect of extraction angle on endotracheal tube extubation force: Simulation and randomized clinical trial.	Journal of International Medical Research 43, 653-660, 2015
81	城戸晴規	麻酔科	Comparison of McGRATH MAC and Macintosh laryngoscopes for double-lumen endotracheal tube intubation by anesthesia residents: a prospective randomized clinical trial.	Journal of Clinical Anesthesia 27, 476-480, 2015
82	桑村歩	麻酔科	Preventive Effect of Preoperative Administration of Hange-Shashin-To on Postoperative Sore Throat: A Prospective, Double-Blind, Randomized Trial.	Journal of Alternative and Complementary Medicine 21, 485-488, 2015
83	葛川洋介	麻酔科	A Perioperative Evaluation of Respiratory Mechanics Using the Forced Oscillation Technique.	Anesthesia & Analgesia 121, 1202-1206, 2015
84	大地 史広	麻酔科	Comparison of intraosseous access with manual and mechanical bone marrow puncture needles: a randomized simulation trial	SpringerPlus 2015;4:211
85	駒澤 伸泰	麻酔科	Comparison of QuickTrack® and Metker® for emergent invasive airway management during chest compression; a crossover simulation trial	European Journal of Anaesthesiology in press. 2015 Jun;32 (6) :440-2.
86	駒澤 伸泰	麻酔科	Comparison of McGrath® and Pentax-AWS Airwayscope® for tracheal intubation by anesthesiologists during chest compression in manikin; A randomized crossover trial.	European Journal of Anaesthesiology in press 2015 Jun;32 (6) :442-3
87	Nuri T,	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Osaka Medical College, Takatsuki, Osaka, Japan.	Reconstruction of the dynamic velopharyngeal function by combined radial forearm-palmaris longus tenocutaneous free flap, and superiorly based pharyngeal flap in postoncologic total palatal defect.	Ann Plast Surg. 2015 Apr;74 (4) :437-41

88	Nozomu Fukui,	歯科口腔外科	Quantification of Growth Factors in Platelet - Rich Fibrin : A Preliminary Study.	Journal of Hard Tissue Biology. 24 (3) : 231-234, 2015.
89	Yuichi Ito,	歯科口腔外科	Rapid and Easy Histological Evaluation of Alveolar Human Bone Quality at Dental Implant Sites Using a Nondecalcified Frozen Cryofilm Section Technique : A Technical Report.	Implant Dentistry. 24 (4) : 477-479, 2015.
90	Yusuke Kitagawa,	歯科口腔外科	Preliminary study of the efficacy of conservative treatment using a bite plate for condylar neck fracture of the mandible.	Journal of Hard Tissue Biology. 24 (4) : 385-390, 2015.
91	Yasuko Takahashi,	歯科口腔外科	The Influence of the Usage of a Trepine Bar for Dental Implant Placement.	J Oral Tissue Enginering. 13 (1) : 5-9, 2015.
92	Tetsuji Terazawa	Cancer Chemotherapy Center, Osaka Medical College	Phase II study of cetuximab with irinotecan for KRAS wild-type colorectal cancer in Japanese patients	Asia-Pacific Journal of Clinical Oncology 2015 (doi: 10.1111/ajco.12405, 2015)
93	Tetsuji Terazawa	Cancer Chemotherapy Center, Osaka Medical College	Efficacy of Prophylactic G-CSF in Patients Receiving FOLFIRINOX: A Preliminary Retrospective Study	internalmedicine (54・23, 2969-2973, 2015)
94	Nomi H	Blood Purification Center Osaka Medical College Hospital	A CASE OF ADVANCED BLADDER NEUROENDOCRINE CARCINOMA (SMALL CELL CARCINOMA) SIGNIFICANTLY IMPROVED BY LOW DOSE OF ORAL TEGAFUR-URACIL.	Nihon Hinyokika Gakkai Zasshi. 106 (4) : 269-73, 2015.

計 94

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
~				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 基本事項、委員会審査運営、申請手続・審査手順について等（改正中）	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 6 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 大阪医科大学利益相反ポリシー 大阪医科大学利益相反マネジメント規程 大阪医科大学研究の利益相反に関する指針 大阪医科大学研究の利益相反に関する指針施行細則	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 6 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の要点と体制整備（モニタリングと監査の必要性、臨床研究法制化について等）	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を修了した医師及び歯科医師を対象とする研修は、医療法施行規則第六条の四第一項に規定する診療科ごとにそれぞれの診療領域における臨床経験 10 年以上を有する者を研修統括者として定め、主に基本領域専門医資格もしくはサブスペシャリティ専門医資格を取得することを目的とし、それぞれの学会が定めた専門的な研修プログラムに則り実施している。

2 研修の実績

研修医の人数	101人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
寺前 純吾	糖尿病代謝・内分泌内科	科長	26年	
木村 文治	神経内科	科長	38年	
後藤 功	呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科	科長	31年	
槇野 茂樹	リウマチ膠原病内科	科長	33年	
樋口 和秀	消化器内科	科長	34年	
秋岡 寿一	血液内科	医長	22年	
石坂 信和	循環器内科	科長	30年	
森 龍彦	腎臓内科	科長	27年	
鈴木 富雄	総合診療科	科長	25年	
米田 博	精神神経科	科長	37年	
田中 慶太朗	一般・消化器・小児外科	科長	25年	
岩本 充彦	乳腺・内分泌外科	科長	23年	
花岡 伸治	呼吸器外科	科長	28年	
勝間田 敬弘	心臓血管外科・小児心臓血管外科	科長	28年	
黒岩 敏彦	脳神経外科・脳血管内治療科	科長	37年	
根尾 昌志	整形外科	科長	33年	
玉井 浩	小児科	科長	37年	
寺井 義人	産科・生殖医学科	科長	24年	
大道 正英	婦人科・腫瘍科	科長	32年	
池田 恒彦	眼科	科長	35年	
河田 了	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長	32年	
森脇 真一	皮膚科	科長	30年	
東 治人	腎泌尿器外科	科長	28年	
鳴海 善文	放射診断科・放射線治療科	科長	34年	
南 敏明	麻酔科・ペインクリニック	科長	29年	
上田 晃一	形成外科	科長	32年	
佐浦 隆一	リハビリテーション科	科長	30年	
高須 朗	救急科	科長	30年	
植野 高章	歯科口腔外科	科長	28年	
廣瀬 善信	病理診断科	科長	23年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

- ①抗がん剤の曝露対策(がんセンター研修会)
- ②安全な薬剤管理・与薬のポイント(新人看護師研修, 看護部・クリニカルラダーに沿って実施)
- ③看護部安全対策委員グループ研修会
- ④院内看護師へのがん患者への口腔ケアセミナー
- ⑤放射線治療に関わる看護師、受付事務員、治療担当技師の治療機器安全研修
- ⑥がんに関する様々なテーマで多職種が参加する研修会

・研修の期間・実施回数

- ①H27年5月19日
- ②H27年4月28日
- ③H28年2月4日
- ④9/30・10/14・11/4・12/16 年間4回
- ⑤H27年4月1日
- ⑥1時間～1日・年数回

・研修の参加人数

- ①対象；医師・看護師・薬剤師 計56名
- ②対象；新人看護師 147名
- ③対象；看護師 31名
- ④1回10名程
- ⑤11名
- ⑥がんに関する様々なテーマで多職種が参加する研修会

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

- ①新規採用薬剤、ハイリスク薬剤などに関する研修
- ②新人薬剤師研修・・・対象;(新人)薬剤師 5～9名
I.業務全般について II.輸液製剤の基礎 III.糖尿病療養指導に必要な薬物療法
- ③感染対策
- ④3D水ファントムによるビーム深部関数取得
- ⑤フィジカルアセスメント（呼吸・循環）・呼吸器管理
- ⑥持続導尿・気管挿管介助
- ⑦腎不全と透析
- ⑧循環不全
- ⑨呼吸不全
- ⑩敗血症・DIC
- ⑪せん妄

・研修の期間・実施回数

- ①H27年4月～H28年3月(全37回;原則週1回)
- ②I.H27年4月6日～6月17日、II.H27年7月3日～8月12日、III.H27年10月7日～12月7日

③H28年1月19日～2月26日	⑧10月・2回
④H28年1月16日	⑨11月・1回
⑤9月・4回	⑩12月・1回
⑥9月～2月・34回	⑪1月・1回
⑦9月・1回	
・研修の参加人数	
①対象；薬剤師 10名～30名	⑦看護師 31名
②Ⅰ全21回、Ⅱ全10回、Ⅲ全9回	⑧看護師 88名
③全7回	⑨看護師 29名
④5名	⑩看護師 63名
⑤看護師140名	⑪看護師 53名
⑥看護師 128名	
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況	
・研修の主な内容	
・研修の期間・実施回数	
・研修の参加人数	

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 内山 和久	
管理担当者氏名	診療情報管理室長 大坂 直文 病院薬剤部長 勝間田 敬弘 中央放射線部長 鳴海 善文 広域医療連携センター長 内山 和久 病院看護部長 西山 裕子 医療安全推進部長 南 敏明 医療安全対策室長 村尾 仁 感染対策室長 浮村 聡 病院事務部長 木村 正士 庶務課長代理 丹羽 俊夫 患者サービス課主幹 福田 謙二 医事担当課長 辻 誠司 医薬品安全管理責任者 西原 雅美 医療機器安全管理責任者 岩崎 孝敏	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	電子カルテ
		処方せん	電子カルテ
		手術記録	電子カルテ
		看護記録	電子カルテ
		検査所見記録	電子カルテ
		エックス線写真	電子カルテ
		紹介状	電子カルテ
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ
		従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
		高度の医療の提供の実績	医事課 診療情報管理室
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	各部署
		高度の医療の研修の実績	各部署
		閲覧実績	広域医療連携センター 診療情報管理室
		紹介患者に対する医療提供の実績	各診療科
規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課及び 病院薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策室

年度別に分類している。診療に関連する記録の保管・管理は、平成26年1月4日以前は紙媒体のID番号管理で外来カルテ・入院カルテに分けて保管。現在は電子カルテ上でID番号管理。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室
		医薬品安全管理責任者の配置状況	病院薬剤部 医療安全推進部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	病院薬剤部 医療安全推進部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	病院薬剤部 医療安全推進部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	病院薬剤部 医療安全推進部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学室 医療安全推進部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学室 医療安全推進部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学室
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学室 医療安全推進部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	病院薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療管理室
		監査委員会の設置状況	法人監査室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全対策室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全対策室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	広域医療連携センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医療安全対策室
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	整備中	病院薬剤部－医薬品安全管理責任者講習会	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	<input checked="" type="radio"/> 2. 現状	
閲覧責任者氏名	病院事務部長 木村 正士		
閲覧担当者氏名	広域医療連携センター 内山 和久 診療情報管理室 大坂 直文 病院事務部庶務課 丹羽 俊夫 病院事務部患者サービス課 福田 謙二		
閲覧の求めに応じる場所	広域医療連携センター		
閲覧の手続の概要			
「大阪医科大学附属病院 諸記録閲覧規程」に基づく			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 安全管理に関する基本的考え方2. 医療に係る安全管理のための委員会及び本院の組織に関する基本的事項3. 従業者に対する医療に係る安全管理のための研修に関する基本方針4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針6. 医療従事者と患者の間の情報共有に関する基本方針7. 患者からの相談への対応に関する基本方針8. 高難度新規医療技術の導入並びに未承認薬等を用いた医療の導入を検討するに当たっての基本方針9. その他の医療安全推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有・無)</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療の質と安全確保の推進に関わる課題について審議する2. 医療安全調査委員会や医療改善委員会の報告を受け、検討内容及び改善策を検証する3. 重大な問題が発生した場合は速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに従事者への周知を図る4. 安全管理委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直す5. 安全対策に関するマニュアル等の検討及び見直しをする6. 安全に関する教育・研修及び啓発に関する活動内容について検討する7. クリニカルガバナンスに関わる疑義の有無を審議する。疑義があると判断した際には、病院長がその部署に対して改善及び指導を行う。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 8 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○特別講演会 (3回)</p> <p>「鉄道運転士の安全意識と安全文化について～JR西日本での研究活動から分かったこと～」</p> <p>「医療訴訟ガイドンス」</p> <p>「航空機整備におけるヒューマンエラー対策 ～チェックシートで確実に～」</p> <p>○事例検討会 (5回)</p> <p>「①ウイルス性肝炎に対する当院の取り組みについて</p> <p>②ロールプレイで振り返る平成26年度重大事例 (DVD視聴)」</p> <p>「①救急医療とBLS教育について</p> <p>②安全で適正な輸血療法」</p> <p>「①インスリンに関連するインシデントから学ぶ</p> <p>②医薬品安全使用に関する事例検討～特に重要なハイリスク薬の取り扱い～」</p> <p>「医療人としての個人情報の保護について」</p> <p>～漏洩はこうにして生じる～事例を通じての検証</p> <p>「①平成27年度の重大事例の振り返り</p> <p>②院内患者安全文化の調査結果報告」</p> <p>○上記特別講演会・事例検討会については別途55回DVD上映会を開催した</p>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 1. 当事者は、担当医（指導医）、RM、関係科医師等へ連絡を行い、適切な対応を行ったうえ、速やかに報告する。
 2. 医療安全対策室は報告事例から対応策を検討し、当該部門長およびRMと連携し対応する。
 3. 分析、対処に当たった事例および対応中の事例は、安全管理委員会で報告し検討を重ね、事故の再発防止策についてRMを通じて医療従事者全員へ周知徹底を図る。
 4. 安全管理委員会は医療安全対策室からの報告に基づき、分析結果の妥当性、リスクの重大性、リスク予測の可否、システム改善の必要性、事故の予防策、再発防止策について検討協議する。
 5. 3b以上の事例および3aレベル以下であっても、患者家族の納得が得られない事例等については、医療安全推進部ミーティング、医療安全調査委員会にて今後の対応を検討する。
 6. 安全管理委員会に報告後、必要に応じて医療改善委員会や事故対策会議等を開催する。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無										
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 大阪医科大学附属病院（以下、「本院」という。）における院内感染対策に関する基本的な考え方2. 院内感染対策のための委員会、その他本院の組織に関する基本的事項3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針6. 患者等に対する本指針の閲覧に関する基本方針7. その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針8. 本指針の改廃の手続きについて											
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回										
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染に関する基本方針および院内感染対策実施に関する事項について協議する。2. 院内感染発生時または発生が疑われる場合等の対応について協議する3. 院内感染対策指針および院内感染対策に関する各マニュアル等の制定・改廃の承認について協議する4. 委員会が報告を受けた感染対策室の業務内容について必要に応じて協議する5. 委員会が感染対策室より報告を受けた院内感染に関する教育および啓発に関する活動内容について必要に応じて協議する6. 小委員会の協議内容について必要に応じて協議する											
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回										
<p>・ 研修の主な内容：</p> <table border="1" data-bbox="207 1187 1404 1680"><thead><tr><th data-bbox="207 1187 630 1232">演題</th><th data-bbox="630 1187 1404 1232">講師/内容</th></tr></thead><tbody><tr><td data-bbox="207 1232 630 1332">院内感染対策最新事情:エボラから手指消毒まで</td><td data-bbox="630 1232 1404 1332">奈良県立医科大学感染症センターの笠原 敬先生 エボラ出血熱に関連し、標準予防策から手指消毒まで幅広い内容のお話だった</td></tr><tr><td data-bbox="207 1332 630 1433">肝炎ウイルスについて(特にHBV) 院内感染予防とワクチンの重要性</td><td data-bbox="630 1332 1404 1433">本院消化器内科 津田 泰宏先生 ウイルス肝炎についてまた院内では針刺し事故に関連したワクチン接種予防についての内容</td></tr><tr><td data-bbox="207 1433 630 1556">手指消毒剤と个人防护具の使用について～院内のあるある場面を通して～</td><td data-bbox="630 1433 1404 1556">感染対策室 川西 史子 感染管理認定看護師 リンクナース 標準予防策などから个人防护具の選択と基本的な説明のあと、病棟での実際を見せながら、できているところ、してはいけないところなどを説明した内容</td></tr><tr><td data-bbox="207 1556 630 1680">抗菌薬適正使用について</td><td data-bbox="630 1556 1404 1680">病院薬剤部/感染対策室 山田 智之 薬剤師 なぜ適正使用が必要か、適正使用ラウンドについて、PK-PD理論、腎機能低下時の抗菌薬投与～TDM、抗菌薬投与について注意してほしい具体例などの内容</td></tr></tbody></table>		演題	講師/内容	院内感染対策最新事情:エボラから手指消毒まで	奈良県立医科大学感染症センターの笠原 敬先生 エボラ出血熱に関連し、標準予防策から手指消毒まで幅広い内容のお話だった	肝炎ウイルスについて(特にHBV) 院内感染予防とワクチンの重要性	本院消化器内科 津田 泰宏先生 ウイルス肝炎についてまた院内では針刺し事故に関連したワクチン接種予防についての内容	手指消毒剤と个人防护具の使用について～院内のあるある場面を通して～	感染対策室 川西 史子 感染管理認定看護師 リンクナース 標準予防策などから个人防护具の選択と基本的な説明のあと、病棟での実際を見せながら、できているところ、してはいけないところなどを説明した内容	抗菌薬適正使用について	病院薬剤部/感染対策室 山田 智之 薬剤師 なぜ適正使用が必要か、適正使用ラウンドについて、PK-PD理論、腎機能低下時の抗菌薬投与～TDM、抗菌薬投与について注意してほしい具体例などの内容
演題	講師/内容										
院内感染対策最新事情:エボラから手指消毒まで	奈良県立医科大学感染症センターの笠原 敬先生 エボラ出血熱に関連し、標準予防策から手指消毒まで幅広い内容のお話だった										
肝炎ウイルスについて(特にHBV) 院内感染予防とワクチンの重要性	本院消化器内科 津田 泰宏先生 ウイルス肝炎についてまた院内では針刺し事故に関連したワクチン接種予防についての内容										
手指消毒剤と个人防护具の使用について～院内のあるある場面を通して～	感染対策室 川西 史子 感染管理認定看護師 リンクナース 標準予防策などから个人防护具の選択と基本的な説明のあと、病棟での実際を見せながら、できているところ、してはいけないところなどを説明した内容										
抗菌薬適正使用について	病院薬剤部/感染対策室 山田 智之 薬剤師 なぜ適正使用が必要か、適正使用ラウンドについて、PK-PD理論、腎機能低下時の抗菌薬投与～TDM、抗菌薬投与について注意してほしい具体例などの内容										
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況											
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 感染情報ボードを作成し感染対策委員会で発生状況の報告を行う2. 各種委員会、担当者会議等、会議を通じて発生状況の報告を行う3. 定期的なサーベイランス及び病棟巡回を通じて院内感染対策活動の推進と改善と共に、適正な抗菌薬の使用についての介入を実施4. ICT-News を全部署に配布し、院内感染対策の推進を行う											

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 54 回
・ 研修の主な内容： ・ 医薬品（麻薬、毒薬、ハイリスク薬など）の安全な取扱いについて（対象：新人看護師） ・ 抗がん剤の曝露対策（対象：医師，看護師，薬剤師） ・ 糖尿病療養指導に必要な薬物治療の知識（対象：薬剤師） ・ 医薬品安全使用に関する事例検討 ～特に重要なハイリスク薬の取り扱い～（対象：全従業者） ・ 麻薬の取扱い、アレルギーへの対応（対象：看護師（看護部安全対策委員））	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （有） ・ 業務の主な内容： 1) 医薬品の採用・購入に関する事項（未承認新規医薬品等に関する事項を含む） 2) 医薬品の管理に関する事項 3) 病棟・各部門への医薬品の供給に関する事項 4) 患者に対する医薬品の使用（処方・調剤・服薬指導など）に関する事項 5) 医薬品情報の収集・管理・提供に関する事項（未承認等の医薬品の使用の情報等を含む） 6) 他施設（病院・薬局等）との連携に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 厚生労働省新着情報配信サービス・医薬品医療機器情報配信サービスなどWEBによる情報収集、および製薬メーカー・卸などから直接的に情報収集 2) 情報入手当日もしくは翌日（翌診療日）の薬剤部内朝礼で情報伝達 3) 緊急性に応じて「緊急薬剤部情報」「薬剤部情報」を作成し院内各部署へ配布 4) 処方医師に確実に伝達が必要な場合には、処方医リストを作成しDI室から直接処方医・当該診療科の薬事委員に連絡・通知する（電話もしくはE-MAIL）。さらに、病棟薬剤師が個別に情報伝達する（処方医師が当該情報を確認・把握しているか確認する） 5) 院内版薬剤部HPに新着情報掲載 6) 院内の医薬品の使用状況を定期的に確認し必要な措置を講ずる（未承認医薬品等の使用、適応外・禁忌等に該当する処方の把握、必要性の検討等）	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 57項目延べ144回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容： 医療機器の使用目的など概要説明 医療機器の仕様説明 医療機器の取扱い説明 医療機器の保守に関する説明	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る計画の策定 ((有)・無)・ 保守点検の主な内容： 日常点検：使用後、次回使用に備えるための簡易点検（基本的に取扱い説明書に記載される項目） 定期点検：1年1回～2回計画を立てて実施する。点検はメーカー点検と院内点検に分かれる。院内において実施する定期点検項目はメーカーが実施しているものを引用し、検査合格値はメーカー設定値に準じる。定期点検の実施については、メーカーの講習を履修し、認可を受けたうえで実施している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">● 医療機器安全管理責任者設置と同時に、医療機器安全管理委員会が設置されている。医療安全推進部の直下で連携しており、情報の共有を図っている。● 輸液ポンプを安全機構が充実した新型機種にて、全保有機を対象に更新中である。長期にわたる旧型と新型の混在が避けられないため、医療安全の維持に十分配慮し他部署との連携を密にして取り組んでいる。● 臨床工学技士の24時間常駐により、ME関連トラブルへの対応レスポンスが向上した。	

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理部門である医療安全推進部の部長に医療安全管理責任者（副院長）を配置している。医療安全管理責任者は医療安全管理委員会の副委員長を担っている。医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者は医療安全推進部に属しており、医療安全管理責任者が統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 3 名 ） ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品製造販売業者とのヒアリングやPMDAメディナビ等を利用して、医薬品情報を収集・管理する。得られた情報について、緊急性・必要性に応じ、医薬品を取り扱う従業者に周知を図る。また、情報収集にあたり、医薬品の適正使用のために必要な情報、医薬品の重大な副作用や健康被害等に関する院内外の情報収集に努める。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>院内の医薬品の使用状況を定期的に確認し、未承認医薬品等の使用、適応外・禁忌等に該当する処方状況を把握し、処方の妥当性、必要性等を検討する。 未承認新規医薬品等の使用について審議する「病院倫理委員会」の委員に委嘱されている。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有) ・ 無</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) ・ 無 「インフォームド・コンセントに関する指針」が相当する。</p> <p>・規程の主な内容： 上記指針には、説明に基づく同意を得るために医療者がなすべき事を記載している。インフォームド・コンセントの基本姿勢について、相互の信頼関係を構築した上で患者の状況に合わせて、患者の判断の自由性を確保する。指針では身寄りの無い者や患者の同意能力にも配慮がなされており、インフォームド・コンセントを得る手順が具体的に明文化されている。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・活動の主な内容： 病院内の診療記録に関連する事項は、診療情報管理委員会で決定する。診療情報管理委員会は、診療情報管理室長が委員長となり月に1度委員会を開催している。委員会の構成委員は、診療情報管理委員会には、下部組織として外来カルテ調査実務委員会、入院カルテ調査実務委員会があり、それぞれの委員長は、診療情報管理委員会に出席し、委員会の活動報告を行なっている。またそれぞれの委員会では、外来診療記録、入院診療記録について、多職種の委員が監査を行ない、結果の報告を行なう。監査の結果は診療情報管理委員会で報告の後、診療科長会、合同会議で報告し、監査を行なった診療科の診療科長へも報告している。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有 <input checked="" type="radio"/> 無
<p>・所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（12）名 うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（9）名 うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「事故等」事例の発生頻度、事故の損害規模、事故の質等を分析する。 (2) 診療内容のモニタリングを行う。 (3) 安全対策についての問題点を把握し、改善策の企画立案やその実施状況を評価する。 (4) 医療の安全管理の体制確保及び推進のための課題を検討するために、医療安全推進部ミーティングを行う。 (5) 安全対策に関するマニュアル等の具体的な検討及び見直しをする。 (6) 医療安全に係る職員への教育・研修を企画・実施する。 (7) 感染対策室と密接な連携をとり、院内感染防止に努める。 (8) 医薬品安全管理責任者と密接な連携をとり、医薬品の安全確保に努める。 (9) 医療機器安全管理責任者と密接な連携をとり、医療機器の安全使用の確保に努める。 (10) 未承認薬等並びに高難度新規医療技術を用いた医療の導入に関することを行う。 (11) その他、必要な事項は別に定める。 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ）</p> <p>・規程の主な内容：</p> <p>大阪医科大学附属病院医療管理室規程（抜粋）</p> <p>高難度新規医療技術の導入に関することを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 導入申請を受け付ける。 ② 導入の適否について病院倫理委員会に意見を求める。 ③ 適正に提供されているかを病院長に報告する。 <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ）</p> <p>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ）</p>	

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 無)
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 無)
- ・規程の主な内容：

大阪医科大学附属病院医療管理室規程（抜粋）

未承認新規医薬品の導入に関することを行う。

 - ①導入申請を受け付ける。
 - ②導入の適否について病院倫理委員会に意見を求める。
 - ③適正に提供されているかを病院長に報告する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 無)
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 無)

⑨ 監査委員会の設置状況 (有 無)

- ・監査委員会の開催状況：年 0 回 ※経過措置期間までに対応致します。
- ・活動の主な内容：

※経過措置期間までに対応致します。
- ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有 無)
- ・委員名簿の公表の有無 (有 無)
- ・委員の選定理由の公表の有無 (有 無)
- ・公表の方法：

※経過措置期間までに対応致します。

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
小林 一郎	社会福祉法人 仙養会北摂総 合病院	○	高槻市医師会の医療安全対策委員会委員であり医療に係る安全管理に関する識見を有する者であるため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
阪上 雅史	兵庫医科大学 病院		大学附属病院の医療安全管理部長であり医療に係る安全管理に関する識見を有する者であるため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1

家郷 資大	家郷 総合法律事務所		現職の弁護士であり、法律に関する識見を有する者であるため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
田中 和子	なし		実際に医療を受ける者であり、意見をのべることができる者であるため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
佐野 浩一	学校法人大阪医科薬科大学		大学の教員であり、医療等の内容及び説明、同意文書が一般的に理解できるか等の意見をのべることができる者であるため	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

<p>⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 361 件 (H27. 6. 2～H28. 3. 31) ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 2 件 (H28. 3 から報告開始) ・医療安全管理委員会の活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> 医療安全推進部の実務にあたる。医療安全対策室の活動 ① 全死亡症例の把握 (死亡の事実、死亡前の状況) を行い、管理者に報告する。 ② 通常の経過では必要のない処置又は治療が必要になった事象の報告を受け、発生前の状況を把握し管理者に報告する。
<p>⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院への立入り (<input checked="" type="radio"/> (病院名：) ・無) ・他の特定機能病院からの立入り受入れ (<input checked="" type="radio"/> (病院名：) ・無) ・技術的助言の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> 東京女子医科大学病院と H29 年 1 月 27 日に実施予定

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者サポート体制加算をとっており、患者向けのあらゆる相談について窓口の体制を有している。窓口には、看護師・医療ソーシャルワーカー・事務が常駐しており、安全管理に関する相談があれば、必要に応じて担当者が面談している。また申出内容については院内にあるシステムに則り対応をすすめている。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）

・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）

・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

※経過措置期間までに対応致します。

現在おこなっている職員研修：

○新入職員オリエンテーション

- ・全職種が一堂に会すオリエンテーションにて、医療安全対策について医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者とともに実施。

○臨床研修医オリエンテーション

- ・「安全対策ワークグループ」実習を室員の先生方の協力のもと実施。

○臨床研修医及びレジデント対象

- ・「HBV再活性化問題について」
- ・「CVC挿入について」
- ・「インスリン安全使用について」

○リスクマネージャー宿泊研修

- ・「リスクマネージャーとしてのリーダーシップを具体的に理解し、その実践力を身につけるための研修」RCA分析、TeamSTEPPS、チェックリストの活用等

○インシデントレポート更改のための研修

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

※厚労省から出される方針に添い、経過措置期間までに対応致します。

医薬品安全管理者のみ研修受講済み

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 ①日本医療機能評価機構 3rdG : Ver. 1.1 認定期間 平成27年7月25日～平成32年7月24日 主たる機能：一般病院2 認定第JC602-3号 副機能：精神科病院 認定第JC602号 ②公益財団法人 日本適合性認定協会 ISO15189 : 2007 認定期間 平成21年3月23日～平成29年3月31日 認定番号RML00450	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ●肝疾患相談支援センター（肝疾患拠点病院）としての役割 ・専用ホームページ作成・・・疾患の特徴、治療方法、注意事項などを説明している ・肝臓病教室の開催・・・偶数月2ヶ月に1回を頻度を実施。患者さまを対象に、多職種（医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカーなど）を講師として1時間のミニレクチャー。 ・市民公開セミナーの実施・・・1年に1回市民を対象にした公開講座を実施 （平成28年10月15日に実施予定） ・肝疾患相談支援センター・・・講座や肝炎の啓発など情報提供を定期的実施 ●難病総合センターとしての役割 (1) 難病に関する情報の収集分析並びに難病対策、教育、啓発の企画立案に関すること。 (2) 難病登録及びデータの二次利用に関すること。 (3) 難病の診療及び教育に関すること。 (4) 難病指定医の登録管理に関すること。 (5) 集学的治療を円滑に行うための難病支援に関すること。 (6) 地域の医療機関・福祉施設・行政機関等との連携に関すること。 (7) 難病治験・臨床試験の活性と支援に関すること。 (8) 難病の先端的医療の開発に関すること。 (9) 難病在宅支援並びに難病専門教育研修実施に関すること。 (10) その他、センターに関すること。 ・地域医療介護総合確保基金事業→大阪府からの委託事業 【難病患者在宅支援事業】 ・研修会（年2回以上、対象は、在宅のスタッフ） ・同行訪問（当院専門医とかかりつけ医が在宅の患者宅に出向き、協議する） ・三島圏域難病医療ネットワーク会議 事務局として活動	

- ・三島圏域の健康フェアに参画
- ・筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病の啓発事業

●がんセンターとしての役割

がんセンターのホームページを随時更新し情報発信している。

患者様向け・・・市民公開セミナー、がん患者サロン等の開催、緩和ケア研修修了者一覧、がん登録情報、治療成績などを中心に情報発信している。

医療関係者向け・・・レジメン登録、がん地域連携バスや受診報告書などの手順を掲載、また、がんセンター主催の研修会の受講募集や講演会、三島がん研究会の開催案内などを中心に情報発信している。それらについては、ポスターやチラシを院内掲示、近隣の医療機関だけに留まらず院外薬局やがん地域連携バスの連携医などにも案内している。

さらに、先端医療開発部門、化学療法センター、臨床研究センター、緩和ケアセンター、治療成績などがんに関する様々な情報をホームページやポスター、チラシなどを通じて情報を発信している。

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無

○・無

・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要

がんの体制

・がんセンターでは、複数の診療科の医師、病理医、放射線治療医、看護師など多職種が参加するがんセンターボード（WG）を開催するため診療科横断的支援を行っている。

今までWGを行っていた「若いがん患者の妊孕保持のための受診について」は、院内運用を開始している。また、骨転移がんセンターボードについても、専用テンプレートの作成や院内運用、症例検討などを毎月行い、複数の診療科や多職種が連携している。

・緩和ケアチームでは、診療科からの依頼に対しカンファレンスを行い、チームで連携して診察にあたっている。さらに、今年度は、口腔外科と連携を取り歯科医師と一緒にチーム回診を実施し、口腔ケアを行っている。

・化学療法センターでは、化学療法センター配属の医師をメインに複数の診療科の医師、看護師、薬剤師、MSWなどが一緒にカンファレンスを行い診療にあたっている。

複数科における具体例

○産科・小児科・小児心臓血管外科

・小児心臓疾患に関して、産科で分娩前の胎児段階において超音波診断で異常を確認する。詳しくは小児科（循環器チーム）が診断を行い、必要であれば外科へリレーすることになる。日常的にカンファレンスを通じて、患者の状態を共有して診療にあたっている。

○神経内科・脳神経外科

・脳卒中センターを上記2つの診療科が支えている。日頃からカンファレンスを通じて患者情報の共有がなされている。外科領域で手術が必要な場合には、脳神経外科がカバーすることになる。

(様式第 8)

大医病発第 62 号
平成 28 年 9 月 6 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 大阪医科薬科大学
理事長 植木 實 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

「医療安全管理のための指針」及び「医療安全推進部規程」に基づき、医療安全推進部の部長に医療安全管理責任者（副院長・医師）を配置している。

「医療安全管理のための指針」内容：

医療安全推進部に医療安全管理責任者として部長をおき副院長（安全担当）をもってあてる。

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

対応済み

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

配置済み

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

作成済み

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

配置済み

6. 規則第9条の23第1項第10号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

対応済み

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

設置済み

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

経過措置期間までに対応致します。

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

経過措置期間までに対応致します。

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

経過措置期間までに対応致します。

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

経過措置期間までに対応致します。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

経過措置期間までに対応致します。

13. 監査委員会を設置するための予定措置

経過措置期間までに対応致します。

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

厚労省から出される方針に添い、経過措置期間までに対応致します。

15. 職員研修を実施するための予定措置

経過措置期間までに対応致します。

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

厚労省から出される方針に添い、経過措置期間までに対応致します。

17. 医療安全管理部門の人員体制

- ・所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（12）名
- うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（9）名
- うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名
- うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

- ・医師については、専従1名を平成28年11月1日に配置する予定です。
 - ・薬剤師については、現在兼任者1名を配置しております。
- 加えて、専任・専従の配置については、以下の計画となります。
- 平成28年10月1日～ 5割以上の専任を1名配置
 - 平成30年4月までに 5割以上の専任2名の配置を予定
 - 平成32年4月までに 8割以上の専従1名の配置を予定
- ・看護師については、現在専従2名配置しております。